

## 第2回 湯沢町総合計画審議会 要旨

日時：令和2年10月26日13時30分

会場：湯沢町役場 大会議室

参加者：委員15名 事務局6名

1. 町長あいさつ
2. 自己紹介

### 次第

1. 会長あいさつ

総合戦略から引き続き、会長を指名していただき恐縮ではあるが、他の自治体の総合計画策定にも携わった経験から湯沢町にもフィードバックできるように努めていきたい。タイトなスケジュールにはなるが、これから審議の程、よろしくお願い申し上げます。

2. 議題

(1) 総合計画について【資料1】

○富沢課長より説明

質疑なし

(2) 町民意識調査結果について【資料2】

(3) 後期基本計画の評価について【資料3】【資料4】

○2つまとめて平賀主任より説明

松田委員

資料2の抜粋は、この審議会のみ公開の資料なのか、オープンにするものか？資料2の抜粋2ページ目「地域のボランティア～」の記述のみ課題が記載されているので、この文だけ異質なものに感じる。オープンにするなら削除したほうが良い。

平賀主任

オープンにするのは、資料2のみと考えている。ご指摘には感謝する。

林副会長

20～30代の回答率が上がっていない。60～70代の回答で7割を占めている調査結果を提示されても、ただの高齢者アンケートの結果になりかねない。この世代の住みよさよりこれからの世代の住みよさを考えていく必要があるため、回答率向上に努めてほしい。

また、コロナの影響で特に来年度以降町の財政状況を鑑みて、持続可能な行政運営が行えるのか疑問である。新しく安定的な税収の確保についても検討していくことが必須だと考える。集中的かつ長期的に考えていく仕組みを作ることをご提案させていただく。

鷺見会長

今の話を受けて、意見がある方はいるか？

佐久間委員

確かに今後の財政運営を考えていく必要はあると思う。財政が安定していないと今回総合計画を策定しても、砂上の楼閣のようなものになりかねない。しかしながら、今回は総合計画の策定審議会なので、それは別の機会にしたほうが良いと考える。

山本委員

ざっくりばらんに言えば、総合計画は、細かいことが様々書いてあるが、何にも変わっていない。湯沢町は30年間じり貧になっている状況だと思う。従来とは違う町の新しい未来を考えていく審議会なのか、町の事務局が考えるのか。総合計画の中で、「自然を活かした観光」を大きな方向性として考える中で、ではその具体的な中身を考えていく等もしていかないと変わるものがないものになるのではないかと？

鷺見会長

本日は、従来の総合計画の評価が主とするため、活発なご意見交換については、次回皆様と改めて伺っていきたいと思う。またこのコロナ禍という予期できないことに対応できる体制も必要になってくる。

綿貫委員

「重要度が高く、満足度が低い項目」については、重点的に施策を検討していく必要があると思う。また湯沢町は非常に広く、各地域の特性等もあるため、その点も考慮したうえで検討を進めていけたらと思う。

鷺見会長

35pでは、「重要度が高く、満足度が低い項目」についての分析等は、事務局の方でしているか？

平賀主任

きちんとした場や機会を設けて、分析を行っているということはないが、この結果は各部署には共有している。

鷺見会長

達成度の低かったところや、「重要度が高く、満足度が低い項目」については、私も分析をしておらず反省するべきであった。事務局には、地域別の回答の差異についての分析もあわせてしてもらえるとありがたい。

山口委員

現在、DMOの設立の準備を行っていて、比較的若い年齢層の皆さまが協議している。みんな絵にかいた餅にならないように努めている。今まで取り組んできた事業についてはまとめられていないのか？また事業の評価については、目標を～%達成したかどうかという項目のみということではよいのか？

平賀主任

取り組んできた事業は資料3にまとめてある。評価については目標値の達成状況で行っている認識でよろしいです。

佐久間委員

回答率が伸びない、5割満たないというのは少し寂しいと感じる。他の自治体はどういう回答方法で、どれだけの回答率なのか教えてほしい。

また、社協で行ったアンケート調査では職員が手渡し・回収という方法もあることから6割以上の回答率だったこともあるし、実際に顔を合わせることで生のご意見も伺う機会も多々あった。

鷺見会長

加茂市でも5割程度であった。若年層では低く、高齢層では高いといった特

徴はどの自治体でも同じ状況だと思う。また、ワークショップ形式での審議会を行うと若い方の参加も結構見られる傾向がある。インターネット回答は新潟県内でも初だと思う。5%回答率が向上したのは大きな成果だと感じている。

林副会長

30年変わっていないというご意見について、少し良い訳をさせていただく。以前の総合計画は事業主体の記載がなかった。全体としては見えづらいことはあるかもしれないが、誰が何をやるか？ということが明確に記載されるようになった。

また、人口はそれほど減っていない。これは総合計画・総合戦略の大きな成果として受け取っていいと思っている。

鷲見会長

奥田委員が委員として参加しているということも大きな変化だと思っている。

松田委員

計画のチェック項目は、チェックに特化して、先に繋がるような記載については控えたほうが良いと考える。

鷲見会長

そういった視点も今後ご議論していただければと思う。

奥田委員

20代の回答の母数は少ないが、おそらく地元で育った20代未満の方が「住み続けたいと思わない」の回答が多いことが、問題だと思う。仮に工場がたくさんできて就労先が沢山できたところで、自然が魅力の町と思っている人がそこに勤めるかという疑問がある。自然を活かした工事や、企業の誘致を検討するほうが良いと思う。自然環境を活かした町の整備のやり方はきっとある。

林副会長

企業が事業所や工場を設置する際の一つの基準として、人口20万人以上の地域というデータがある。湯沢町では、その基準を満たしていないことになる。

鷲見会長

那須や京都では、工事をする際は町の景観を損なわないように徹底して行われているが、湯沢町でも工事等を行う際、そういったことへの配慮に徹底して行うべきという話だと思う。

入江委員

湯沢町で生まれ育って、ずっと湯沢にいた人間はいい人材にならない。一度外に出て戻ってきた方がいい。したがって若年層を湯沢町に留めることは考えなくていいと思う。

また、湯沢町は教育レベルが低い。教育レベルを上げていかなければいい人材は育っていかない。

鷲見会長

教育は一つの柱になるし、別の委員会でも慎重に検討がなされているはず。第3回でまた議論していただきたい。

富沢課長

回答率に関して補足させていただく。アンケート調査の年齢構成と、人口に対する年齢構成が同じなので、直接回答率が低いというわけではない。

林副会長

今後は無作為ではなく、作為的に20～40代を8割といった様に設定したほうがいいかもしれない。

鷲見会長

昨年総合戦略のアンケートで20～30代を対象に調査したが、極端に回答率が低かったということもあり、年代を絞ることをしなかったという背景もある。

(4) 今後のスケジュールについて

○平賀主任より説明

第3回：令和2年11月17日（火）

第4回：令和2年11月26日（木）

第5回：令和2年12月9日（水）

第6回：令和2年12月21日（月）

林副会長

リモートでの会議予定はあるのか？

平賀主任

現段階では考えていない。

3. その他

質疑なし

4. 閉会